

1. 調査の目的・・・65歳以上の全市民の健康増進や地域課題を把握するためアンケートを実施。
2. 調査件数・・・15,352人
3. 調査時期・・・平成28年6月24日～11月4日
4. 調査方法・・・配布・回収ともに、郵送で実施。
なお、回答期限を過ぎても回収できていない方については督促状・電話による送付依頼や直接訪問による聞き取りを実施。
5. 調査の有効回答者数・回答率【平成28年12月末現在】・・・有効回答者数10,251人(男性4,336人、女性5,915人)・回答率66.8%

第2章 アンケート調査結果

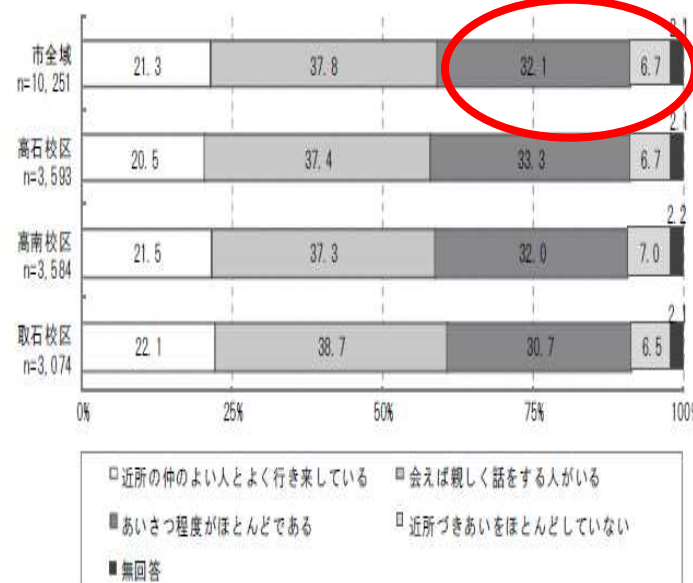
(2) 社会的役割について

近所づきあいの程度をみると、あいさつ程度も含め、多くの方が何らかの付き合いを持ち、「近所づきあいをほとんどしていない」(6.5～7.0%)は1割未満と少ない状況です。

また、家族や友人・知人に相談されたり、相談したりしている方は7割台(73.2～76.2%)となっています。

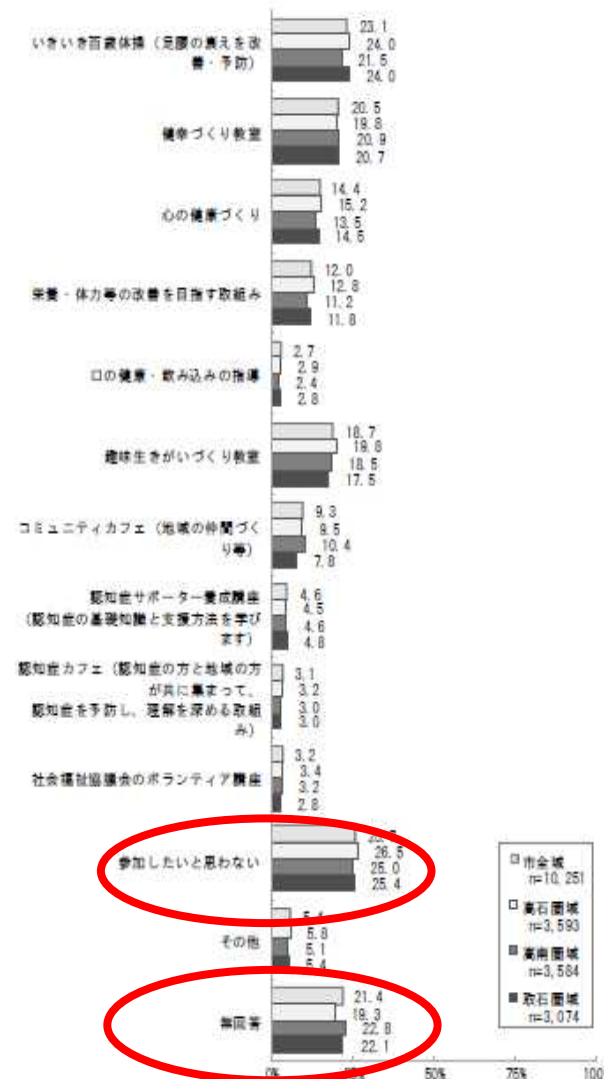
さらに、相談相手についてみると、「子・子の配偶者」(64.4～65.7%)が最も多く、次いで「配偶者」(56.8～58.2%)、「友人・隣人」(50.3～53.5%)、「兄弟・姉妹」(40.4～42.7%)となっています。

問4-Q3 近所づきあいの程度



介護予防のために参加したいと思うサービスについて、「いきいき百歳体操」(21.5～24.0%)、「健康づくり教室」(19.8～20.9%)、「趣味生きがいづくり教室」(17.5～19.8%)の順となり、その他「心の健康づくり」「栄養・体力等の改善を目指す取組み」で1割を超えています。一方で、約4人に1人が「参加したいと思わない」という状況です。

介護を必要とする状態にならないために、参加したいと思うサービス等

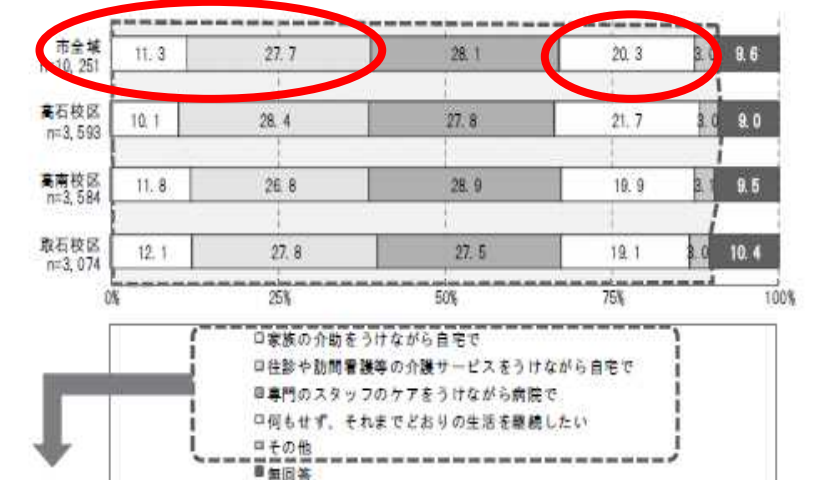


(4) 終末期(ターミナルケア)について

余命宣告をされた場合に希望する療養生活について、「専門のスタッフのケアをうけながら病院で」(27.5～28.9%)、「往診や訪問看護等の介護サービスをうけながら自宅で」(26.8～28.4%)、「何もせず、それまでどおりの生活を継続したい」(19.1～21.7%)の順となっています。

また、希望する療養生活を家族が把握していると答えた方は35%強となっていますが、「いいえ」「わからない」と答えた方は50%弱となっています。

問5-Q7 余命宣告をされた場合に希望する療養生活



問5-Q8 希望する療養生活を家族は把握しているか

